



# 北の大地とともに



CSRレポート2019

北海道コカ・コーラボトリング株式会社

## TOP MESSAGE

# いままでも、これからも、 「北の大地とともに」



代表取締役社長 **佐々木 康行**  
Sasaki Yasuyuki

私たち北海道コカ・コーラボトリング株式会社ならびにグループ各社は、北海道に生まれ、北海道の皆さまに育てられてきたごさんご企業です。

当社は北海道の豊かな大地に育まれた良質な水と原材料を使い、北海道にある工場での高い品質管理の下、各種清涼飲料水を製造しております。また、地域の皆さまに「さわやかさと潤いを提供し、道民から愛され続ける企業」を目指し、さまざまな事業活動を展開しています。

ごさんご企業である私たちが果たすべき役割は、事業活動を通じて、地域課題解決のお役に立てる活動を継続することです。

そのために私たちは、「環境」「食の安全と健康」「地域社会」の三つの領域を軸にCSR活動を展開し、「SDGs（持続可能な開発目標）」を新たな指標ととらえ、より一層、地域課題の解決に向けた活動を進化させてまいります。

今年には平成が終わり、新しい元号がスタートする節目の年となります。いままでも、これからも、「北の大地とともに」を合言葉に、地域密着のごさんご企業として、この素晴らしい北海道の魅力を実世代へと継承していくため、持続可能な社会の実現を目指し、活動を継続してまいります。

# CONTENTS

TOP MESSAGE	01
CSR活動方針	03
持続可能な社会に向けて	04
北海道コカ・コーラグループのCSR活動	05
2018年CSR活動ダイジェスト	07
平成30年北海道胆振東部地震	09
防災への取り組み	10

## 01 環境

環境に対する基本的な考え方	11
水資源保護活動の推進	12
北海道の環境保全	13
環境教育の推進	14
循環型社会の実現のために	15
地球温暖化の防止に向けて	16

## 02 食の安全と健康

安全と健康を守るマネジメントシステム	17
お客さまとのコミュニケーション	18
地産地消を応援	19
北海道の健康を支える取り組み	20

## 03 地域社会

地域とともに取り組む住みよいまちづくり	21
安全安心への取り組み	22
地域の企業・団体との連携	23
社会貢献活動の支援	24
地域活性化のお手伝い	24
よりよい職場づくり	25

環境会計について	27
企業プロフィール	29

### CSRレポート編集方針

「～北の大地とともに～北海道コカ・コーラボトリング株式会社CSRレポート2019」は、当社グループのCSR (Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任) に対する取り組みをわかりやすく紹介し、ステークホルダー (利害関係者) の皆さまからご意見をいただき、北海道の明るい未来を形づくる持続可能な活動につなげることを目的に発行しています。

#### [対象期間]

2018年1月1日～2018年12月31日。実績データは2018年、活動内容の一部は2019年も含みます。

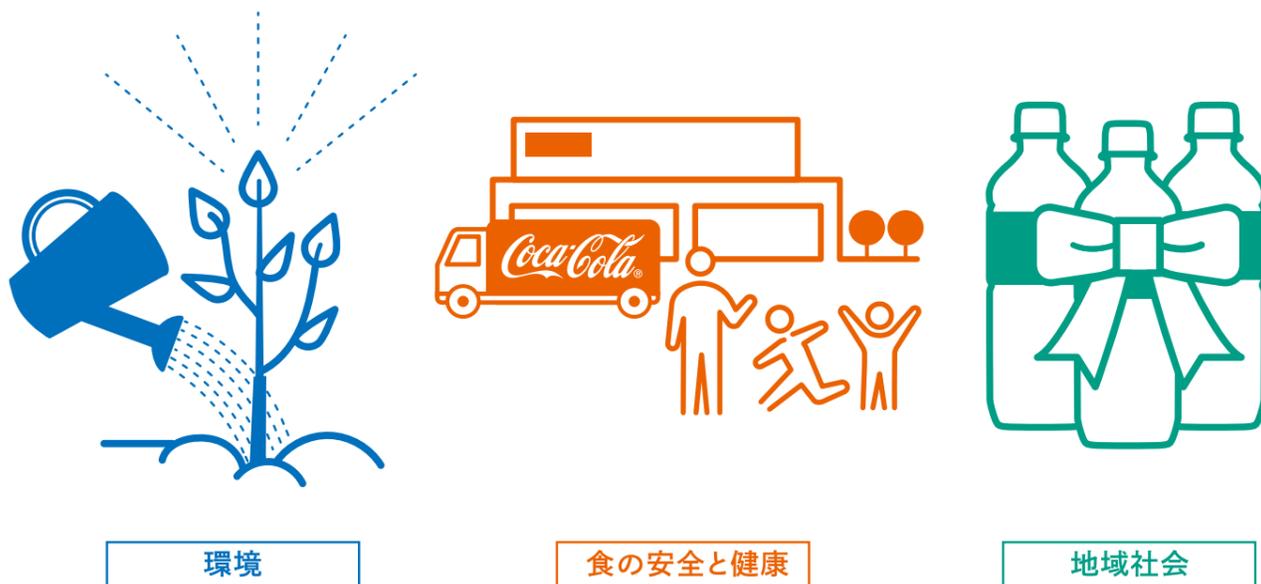
#### [対象組織]

原則的にグループ連結会社を対象としています。(P.30「グループ会社の概要」参照)

# CSR 活動方針

- ・ステークホルダーからの企業評価向上を目指した取り組みを推進します。
- ・環境保全活動などのCSR活動を自発的に行う企業風土を育てます。
- ・事業活動と連動させた継続可能な社会貢献活動を推進します。

## CSR スローガン 「北の大地とともに」



私たちは、「環境」「食の安全と健康」「地域社会」の領域に沿って、責任あるどさんこ企業として北海道の持続可能な社会の実現を目指した活動を幅広く実施しています。

# 持続可能な社会に向けて

## SDGsへの取り組み

### 基本方針

「北の大地とともに」を合言葉に、事業活動を通じた地域課題の解決に取り組んできた当社グループにとって、SDGsを新たな指標にとらえ、「魅力あふれる北の大地『北海道』」を次世代にしっかり継承し、持続可能な社会の実現に向けて取り組んでまいります。



### SDGs (持続可能な開発目標) とは

「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称で、2015年9月の国連サミットで採択されました。国連加盟国193カ国が2016年から2030年までの15年間で達成することをめざして掲げた国際目標です。

17のゴールと、それらを実現させるための具体的な169のターゲットで構成され、政府のみならず企業や一般市民にも課題解決のための行動を要請しています。

# 北海道コカ・コーラグループのCSR活動

CSR活動の3つの領域「環境」「食の安全と健康」「地域社会」において、SDGsの目標を達成するため、ステークホルダーとのパートナーシップを大切に、地域課題の解決に貢献します。

北海道e-水プロジェクトへの支援(累計)

約**1.2**億円、延べ**91**団体

環境にやさしいピークシフト自販機

約**9,000**台

白旗山での森づくり

(植樹累計) (協定面積)  
約**3,200**本、**1,063**ha

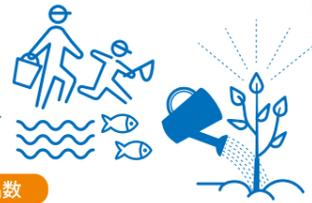


## 環境

北海道の限りある水資源と  
価値ある自然を次世代へ

環境教育参加人数(累計)

約**8,970**人



工場見学来場者数

(累計) (2018年末時点)  
約**79**万人 約**190**種類



製品数

(2018年末時点)  
約**190**種類

## 食の安全と健康

高品質で安全安心な製品の  
提供による健全な  
ライフスタイル  
への貢献

寄付型自動販売機

**40**種、約**1,100**台

災害時の製品供給と自動販売機のフリーバンド(※)台数(直近3年間)

**81,888**本、**215**台

※フリーバンド/災害時に自動販売機内の飲料が無償で提供される機能のこと



電光掲示板付き自動販売機

約**1,330**台

大地震発生 無償提供  
●防災 約**850**台  
●防犯 約**350**台  
●道ねっと 約**130**台

社会福祉施設への製品贈呈(累計)

約**320**万本、**51**年継続

防犯の取り組み

道内全**66**警察署

防災の取り組み

**1**道**179**市町村

キッズタウン参加人数(累計)

約**17,100**人

## 地域社会

どさんこ企業として  
取り組むべき  
健全な地域づくり

- 水資源保護活動の推進  
(製造過程における水使用量削減、製造過程で使用する水の循環、地域の水資源保護)
- 北海道の環境保全(北海道e-水プロジェクト、環境支援自動販売機)
- 環境教育の推進
- 環境負荷低減の取り組み  
(循環型社会の実現、地球温暖化防止)
- 環境会計について



- 安全と健康を守るマネジメントシステム  
([KORE]によるオペレーション管理、国際規格の取得)
- お客さまとのコミュニケーション(お客さま対応、工場見学)
- 地産地消を応援
- 北海道の健康を支える取り組み



- 地域とともに進める住みよいまちづくり  
(北海道との包括連携協定、子どもの安全を見守る運動、まちづくりパートナー協定)
- 安全安心への取り組み(自治体との協働による防災、北海道開発局との取り組み、北海道警察との協働、犯罪被害者支援)
- 地域の企業・団体との連携(キッズタウン、ふれあいボランティア除雪、清掃活動、動物園との協働)
- 社会貢献活動の支援(各種寄付型自動販売機)
- 地域活性化のお手伝い(お祭り、スポーツの支援、製品贈呈)
- よりよい職場づくり



# 2018年 CSR活動ダイジェスト

1年間で取り組んだ主な活動をまとめました。  
2018年ならではのトピックスは太字で表しています。



# 平成30年北海道胆振東部地震



## 北海道胆振東部地震発生、当社の災害対応

2018年9月6日、北海道胆振地方中東部をマグニチュード6.7の大地震が襲いました。当社においても、停電によって札幌工場と物流施設が稼働を停止しましたが、BCPを発動させ9月10日より順次復旧することができました。そのほかさまざまな地域で被害を受けましたが、早期復旧のために全社グループが一丸となって尽力しました。

また、被災地を中心に飲料水を支援したほか（19カ所、2,406ケース）、被災地の市町村庁舎や避難所を中心に合計16台の災害対応型自動販売機が、製品の無償提供（フリーベンド）を行いました（9月6日～13日）。

今回の災害に際し、発生当日から要請に応え、応急生活支援物資の供給に努めた企業を対象に「平成30年北海道胆振東部地震における応急支援物資の供給等に係る感謝状贈呈式」が行われ、当社にも札幌市より感謝状が贈られました。



危機管理対策会議



感謝状贈呈式の様子



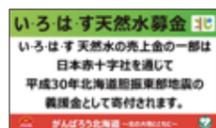
グループ一丸となり早期復旧に向けて尽力

平成30年北海道胆振東部地震	
発生日	2018年9月6日
発生時刻	午前3時7分ごろ
震源地	北海道胆振地方中東部
マグニチュード	6.7
最大震度	7(厚真町)

主な支援先	
札幌市	1,300ケース
厚真町	290ケース
安平町	60ケース
むかわ町	50ケース
日高町	50ケース

## 「い・ろ・は・す 天然水」募金

当社は、「がんばろう北海道～北の大地とともに～」というスローガンのもと、北海道胆振東部地震被災地の方々への支援を目的に、2018年11月～2019年2月の4ヵ月間、北海道で販売された「い・ろ・は・す 天然水」の売上の一部2,447,347円を、日本赤十字社を通じて被災地へ寄付しました。



募金訴求POP

## 被災3町の青少年育成・教育事業を助成

公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団では、北海道胆振東部地震の被災地復興支援の一環として、当社と連携しながら、甚大な被害を受けた安平町、厚真町、むかわ町の復興に取り組む地域の未来を担う子どもたちを対象に、教育インフラ整備の支援として3,500万円を拠出しました。

スクールバスやワゴン車購入費用の一部助成、中高生を対象にした短期留学（ホームステイ）費用の一部助成などを行っています。

## 防災への取り組み

### 電光掲示板付き災害対応型自動販売機

当社は、2006年に締結した北海道との「災害時における飲料の供給等防災に関する協定」に基づいて、「電光掲示板付き災害対応型自動販売機」を活用した市町村との取り組みを展開しています。2012年には、道内全179市町村と防災協定を結びました。この自動販売機は、災害時に遠隔操作によって機内の飲料を無償で提供することができる「フリーベンド」の機能を備え、電光掲示板からは必要な災害情報が発信されます。

2018年には、1年間で37台の災害対応型自動販売機でフリーベンドが行われました。その内、9月に発生した台風と地震では、16の市町村にて合計22台の自動販売機で避難所を中心にフリーベンドが行われました。

2018年災害時の製品供給・フリーベンド記録	
大雨	平取町、増毛町、妹背牛町、留萌市、北竜町、雨竜町
洪水	標茶町、弟子屈町
台風	豊浦町、利尻町
断水	札幌市、中頓別町
地震	札幌市、岩見沢市、南幌町、中富良野町、月形町、安平町、日高町、むかわ町、厚真町、登別市、雨竜町、大空町、美瑛市、新十津川町、砂川市、寿都町、平取町、恵庭市、様似町、広尾町、余市町、枝幸町
合計	製品供給2,436ケース、フリーベンド37台

### 津波への意識啓発

津波に対する防災意識の高まりを受けて、道内沿岸部の津波浸水区域内にある自動販売機に、海拔表示のあるステッカーの取り付けを展開しています。自動販売機内部に災害警報機能を組み込むことで、緊急時には警報を音声で知らせる取り組みも行っており、これまでに釧路市内などに6台設置しています。

災害時の製品供給と自動販売機のフリーベンド(※)台数 (直近3年間)  
**81,888本、215台**  
※フリーベンド/災害時に自動販売機内の飲料が無償で提供される機能のこと  
**電光掲示板付き自動販売機** ●防災……約**850**台  
 ●防犯……約**350**台  
 ●道ねっと……約**130**台  
**約1,330台**



### 地域の防災行事に参加

道内各地で開催される防災訓練などに参加し、緊急物資輸送訓練や、フリーベンドのデモンストレーションなどを行っています。2014年には、札幌市と「震災時の消火用水等の供給協力に関する協定」を締結。大災害の発生時、当社は市の要請を受けて消火用水や飲料水の提供に努めます。また、札幌市消防局では広報活動に協力する企業・団体を「暮らしの火の用心協力隊」として登録していますが、当社はこの第一号として2016年に証の交付を受けました。



防災訓練にてフリーベンドの実演



北海道総務部危機対策局  
 危機対策課  
 危機対策課長  
 加納 孝之さん

### 「まさか」の災害に備える官民連携

平成30年9月6日、本道では初となる震度7を記録した平成30年北海道胆振東部地震が発生。多くの方々の命が失われ、住家等にも甚大な被害が発生したほか、道内全域に及び停電が発生し、ライフラインが寸断するなど、道民生活に大きな混乱をもたらしました。

特に、電気、水道の回復の見込みが立たない地域では、食料や飲料水の確保が喫緊の課題となり、道に対して各地から支援の要請が寄せられ、道では、災害時の防災協定に基づき、御社に飲料水の供給を要請し、発災日の翌日には物資を送り届けていただきました。

未曾有の大災害の中にあつて、迅速に対応いただけたのは、日頃から防災総合訓練や各種行事などを通じて、顔の見える関係を築いてきた成果であり、これからも様々な活動を通して相互の連携を深め、「まさか」の災害に即応できる防災力を強化していきたいと考えています。

### VOICE

# 1 環境

## 北海道の限りある水資源と価値ある自然を次世代へ



人と大地、そしてすべての生き物たちにとって、水は営みの根源を支える大切な恵みです。豊かな水は、北海道コカ・コーラボトリングの製品の源でもあります。かけがえのない「水」を利用してビジネスを行う企業として北海道の水資源を守り次世代へ引き渡していくことは、私たちの責任です。

	4 質の高い教育をみんなに		6 安全な水とトイレを世界中に
	12 つくる責任 つかう責任		14 海の豊かさを守ろう
	15 陸の豊かさを守ろう		

## 環境に対する基本的な考え方

### 環境理念

北海道コカ・コーラグループは、責任ある企業市民として、地球環境の保全に配慮した事業活動を行い、地域社会の豊かな環境の維持と社会の継続的な発展に貢献します。

### 環境行動指針

1. 省エネルギー、省資源に努め、環境負荷を低減します。
2. 事業活動に伴う廃棄物の削減と再資源化を促進するとともに、汚染の予防に努めます。
3. 環境保全に対する全従業員の意識向上を図り、グループをあげて環境保全活動に取り組みます。
4. 地域社会における環境保全活動への協力・支援を推進します。
5. 環境に配慮した物品の購入を促進します。
6. 環境関連法規制、KORE（コカ・コーラシステムが定める基準）及びその他の要求事項を遵守します。



## 水資源保護活動の推進

### コカ・コーラシステムが考える水の循環



当社は貴重な水資源を利用して事業活動を行う企業として、製品に使用した量と同等の水を自然に還元する取り組みを進めています。そのための指針に、「R」から始まる3つの軸があります。一つは、製造過程での水使用量の削減「リデュース (Reduce)」。二つ目は、製造過程で使用する水の循環「リサイクル (Recycle)」。そして、地域の水源涵養「リプレニッシュ (Replenish)」です。

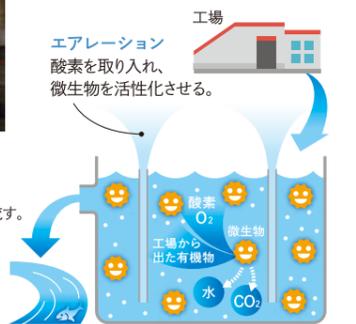
当社が使用する水は、「製造に使用する水」と、「製品になる水」の、大きく二つに分けられます。「製造に使用する水」である洗浄水や冷却水の一部は、使用量を削減したり、再利用を行い最終的に適正な処理をした上で自然に還されます。「製品になる水」は、植樹などの森づくり活動を通じて水源の涵養能力を高めることで、自然への還元を図っています。

### Reduce エレクトロン・ビーム殺菌

札幌工場では2012年より、PETボトル製品の製造ラインで、エレクトロン・ビーム（電子線）によるPETボトルの殺菌を行っています。これにより従来の殺菌に比べて水の使用量を大幅に減らすことに成功しました。



◀エレクトロン・ビーム発生装置



### Recycle ラグーン処理方式

札幌工場の排水処理には、微生物の自己浄化サイクルを活性化させて余剰汚泥の発生量を抑える「ラグーン処理方式」を採用。国の排水基準を上回る自社基準を設けて、より高度な処理を実現させています。

### Replenish 水源での森づくり活動

札幌工場で使用している地下水の水源が札幌市清田区の白旗山であることから、2011年に札幌市と「環境事業に関する協定」を締結し、これに基づき白旗山の森づくりを進めています。豊富な地下水を育む水源の涵養能力を高めること、環境体験学習の場を提供することを目的に実施している「コカ・コーラ『森に学ぼう』プロジェクト」は札幌市森林組合や市民団体と協働で開催しており、地元の子どもたちが参加し、植樹や湧水の観察、木工クラフト体験などを楽しめる人気のイベントです。

また、北海道の自然を次世代へとつないでいくことを目的に、2013年、北海道大学大学院環境科学院との連携によって生まれた環境教育プログラム「山のがっこう」は、小学生から大学生を対象に北海道大学の大学院生が中心となって白旗山をフィールドに、森の過機能や水循環、電気伝導度や安定同位体比を用いた分析など水の科学にふれる機会を提供しています。

白旗山での森づくり  
(植樹累計) (協定面積)  
約 **3,200** 本、**1,063** ha



環境教育プログラム「山のがっこう」

# 北海道の環境保全 北海道e-水プロジェクト

北海道e-水プロジェクトへの支援  
(累計)  
約**1.2**億円、延べ**91**団体

北海道の豊かな環境を道民全体で保全し、未来へと大切に引き継いでいくことを目的に2010年に立ち上がったのが、「北海道e-水プロジェクト」です。北海道、公益財団法人北海道環境財団と当社の三者協働で行うこのプロジェクトは、「ジョージア サントスプレミアム」北海道限定デザインの売上の一部が同財団に寄付され、それを財源に北海道の水辺の環境保全に取り組む団体を応援するとともに、毎年11月には、活動内容を広く発信する「北海道e-水フォーラム」を開催しています。

2018年度の寄付額は約757万円で、プロジェクトの前身となる、北海道との「環境保護活動の推進に関する協定」に基づく寄付を含めた累計寄付額は、約1億1,750万円となりました。また2017年には、安全できれいでおいしい水にあふれる21世紀の日本を目指して、水循環の健全化に向けたさまざまな活動を顕彰・支援するために創設された「日本水大賞」(日本水大賞委員会、国土交通省主催)の、審査部会特別賞を受賞しました。

「ジョージア サントスプレミアム」北海道限定デザイン

1993年発売のロングセラー商品。乳や砂糖は北海道産を使用し、パッケージには大沼、釧路湿原、大雪山、十勝平野と北海道の雄大な風景を採用しています。



北海道e-水フォーラム

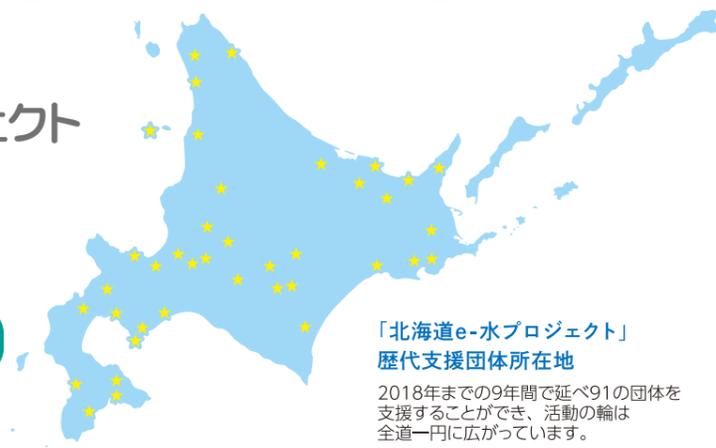
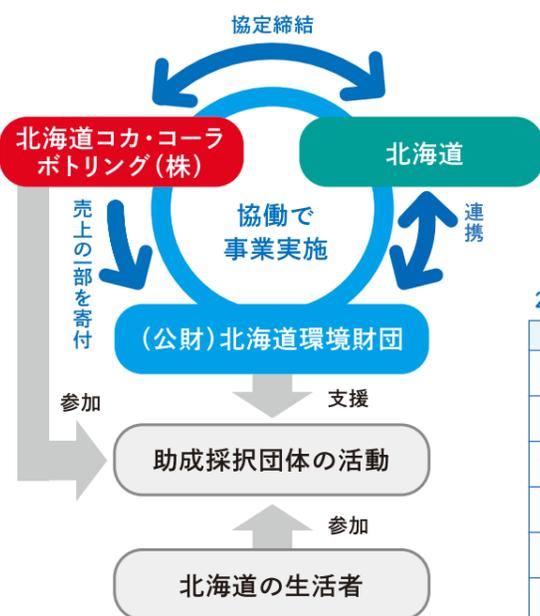


2018年度助成採択団体(美幌市)



2018年度助成採択団体(羽幌町)

## 北海道e-水プロジェクト



### 2018年度助成採択団体

団体名	所在地	活動地域
北海道大学総合博物館 昆虫ボランティア 水生昆虫グループ	札幌市(北区)	標本(水生昆虫)が採集された北海道内の河川全般
石狩川流域 湿地・水辺・海岸ネットワーク	札幌市(手稲区)	石狩川中下流域(空知・石狩)
宮島沼の会	美幌市	宮島沼とその周辺、石狩浜
羽幌みんなでつくる自然空間協議会	羽幌町	羽幌ビオトープとその周辺(福寿川流域)
一般社団法人天売島 おらが島活性化会議	天売島	苫前郡羽幌町天売島
北海道北見北斗高等学校サイエンスクラブ グローバルアクションプロジェクト	北見市	常呂川水系流域(置戸町、訓子府町、北見市)
阿寒湖のマリモ保全推進委員会	釧路市	阿寒湖
北海道七飯高等学校 科学部	七飯町	渡島大沼及びその流域河川と周辺湖沼



知床応援自動販売機

## 知床世界自然遺産への取り組み

2005年、流氷着岸の北半球南端であり、海と陸の原生的な自然が濃密に交わる知床が、世界自然遺産に登録されました。日本が誇るこの稀少な自然環境の保全に貢献することを目的に、当社は斜里と羅臼の両町で「知床応援自動販売機」の設置を展開しています(斜里町では2006年、羅臼町では2007年から)。2018年は合わせて約104万円を寄付し、これまでの累計は、両町で約1,430万円となりました。

## 環境教育の推進

### 雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス

公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団は、栗山町及び同町の皆さんと連携して、廃校となっていた雨煙別小学校を、体験型宿泊施設「雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス」に再生しました。2009年のオープン以来、NPO法人雨煙別学校の運営で宿泊学習やスポーツ少年団の合宿など、多くの利用者を迎えています。

毎年同施設では、環境ボランティア活動に取り組む子どもたちが全国から集う「コカ・コーラ環境フォーラム」が開催され、活動支援のために設けられた「コカ・コーラ環境教育賞」の最終選考会が行われるほか、栗山町ハサンベツ里山での体験学習などのイベントにも活用されています。



雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス  
〒069-1503 夕張郡栗山町雨煙別1-4 TEL/FAX 0123-72-1696



雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス



コカ・コーラ環境フォーラム



「水の授業」の様子

### 出張環境教育を実施

子どもたちに水資源の大切さや環境保全の意味を楽しく学んでもらうために、環境出張授業「水の授業」を展開しています。2018年は、道内各地の環境イベントをはじめ札幌市内の学校などでも実施し、1年で約1,000人が参加しました。

環境教育参加人数  
(累計)  
約**8,970**人

### VOICE

NPO法人雨煙別学校  
雨煙別小学校 コカ・コーラ  
環境ハウス 館長  
高木 政昭さん

#### 環境ハウスへの思い・展望・地域との関わり

「雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス」は町内の子どもたちをはじめ、町民も多数参加する体験の場であり、行政・町民・企業が連携し、里山の保全活動を通じ、人と自然の共生について学ぶ場を提供する施設として、昨年で10周年を迎えることができました。

コカ・コーラ環境フォーラム・全肢連をはじめ、栗山町内、町外の小中学校の自然体験、環境教育の宿泊学習、部活動の合宿、各スポーツ少年団、社会人の研修等でご利用いただき昨年のご利用延べ人数は18,463名と年々増えてきております。

昭和11年に建てられた北海道最古の2階建て木造校舎を自然体験・環境教育・スポーツ等の体験学習の場とし、次世代に繋ぐ担い手として、地域社会に貢献したいと考えています。

## 循環型社会の実現のために

### 容器の2030年ビジョン“World Without Waste”

コカ・コーラシステムでは、2030年を目標年とする「容器の新たなビジョン」を設定し、以下の3つの柱から成る活動に取り組んでいます。



PETボトルの原材料として、可能な限り、枯渇性資源である石油由来の原材料を使用しません。原材料としてリサイクルPETあるいは植物由来PETの採用を進め、PETボトル一本あたりの含有率として平均して50%以上を目指します。



政府や自治体、飲料業界、地域社会と協働し、国内のPETボトルと缶の回収・リサイクル率のさらなる向上に貢献するべく、より着実な容器回収・リサイクルスキームの構築とその維持に取り組めます。



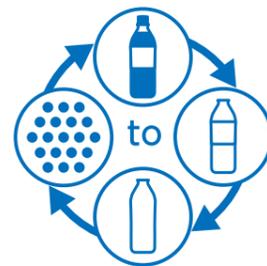
清掃活動を通じて、地域の美化に取り組めます。また、容器ゴミ、海洋ゴミに関する啓発活動に積極的に参画していきます。

### 「ボトルtoボトル」リサイクル

コカ・コーラシステムでは、使用済みPETボトルをそのままPETボトルにリサイクルする、「ボトルtoボトル」を導入しています。以前からケミカルリサイクルPETを使用した「ボトルtoボトル」を実施していましたが、2015年度からはメカニカルリサイクルPETの導入を開始しました。

メカニカルリサイクルでは、分別収集したPETボトルを粉砕、洗浄して表面の汚れを取り除いたあと、高温処理によって樹脂内部にある汚染物質を揮発して除染し、精製してPET樹脂に再生します。安全性の管理は常に優先されている重要事項です。

メカニカルリサイクルPETを導入することで、バージンPETと比べて約50%のCO<sub>2</sub>削減効果が見込まれています。



### ゼロ・エミッション

札幌工場では、2000年より廃棄物の埋め立てと単純焼却処理をすべて廃止して、廃棄物全量をリサイクルするゼロ・エミッションに取り組んでいます。コーヒーと茶製品の生産量増加にともなって廃棄物排出量は増加傾向にありますが、2001年に達成したゼロ・エミッションを継続して達成しています。

ゼロ・エミッションの内容 (単位:t)

リサイクル前	リサイクル後	工場廃棄物排出量		
		2016年	2017年	2018年
コーヒーかす・茶かす	肥料	5,570	5,910	5,814
紙類	再生紙、ダンボール	179	162	163
プラスチック類	再生プラスチック、固形燃料	149	161	145
金属類	再生金属	85	84	84
汚泥	セメント原料、肥料	43	42	59
ガラス類	ガラスびん	0	0	0
一般廃棄物	発電、暖房燃料	12	14	13
合計		6,038	6,373	6,278

## 地球温暖化の防止に向けて

### ピークシフト自販機

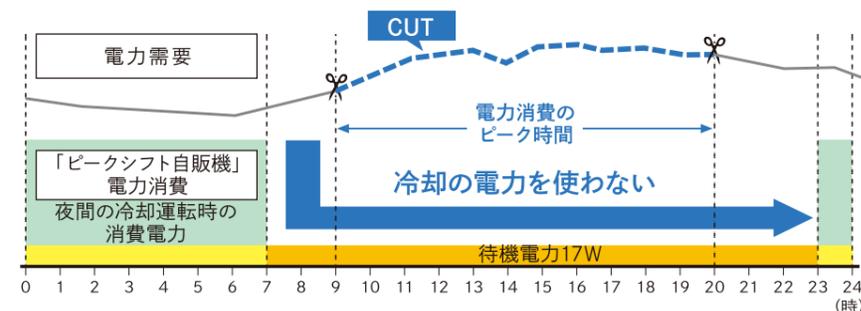
環境にやさしいピークシフト自販機

約 **9,000** 台

ピークシフト自販機とは、電力使用がピークとなる時間帯に最大16時間冷却運転を停止しても冷たい製品が販売できる、省エネ性能にきわめて優れた自動販売機です。高性能のポイントは真空断熱材の採用にあり、冷却のための電力使用を日中から電力に余裕のある夜間にシフトすることで日中の電力消費を約95%（※）削減します。また冬に一部製品を加熱する際も、ヒーターの消費電力が20%程度少なくなり、冷却に使う電力と合わせても68%の電力削減が可能になります。当社はこの自販機を約9,000台展開しており、今後も増やしていきます。

※2012年度製造の同型機平均値比（日本コカ・コーラ社調べ）

時間帯別電力需要の推移と「ピークシフト自販機」の電力消費イメージ図



ピーク時間帯に加えその前後においても冷却運転を停止し消費電力を削減。冷却停止時間：朝7時から夜23時  
出典：東京電力HPより2012年6月1日の電力使用実績



「ピークシフト自販機」

### 夏季・冬季節電

7月1日から9月30日の間、9時～20時までは約5万台の自動販売機を6つのグループに分けて、冷却運転を輪番で停止させています。これにより最大使用時と比べて約15%の電力削減を実現させました。また冬季も冷却運転の輪番停止を行い、電力削減に取り組んでいます。

## 環境にやさしいボトル 北海道の天然水「い・ろ・は・す」



「い・ろ・は・す」は厳選された全国6ヵ所で採水されており、当社がお届けするのは、札幌工場の地下約300メートルの井戸から汲み上げた、北海道の天然水。さらに、「い・ろ・は・す」は環境に配慮された製品で、軽量ボトルとプラントボトルの効果により石油由来樹脂の使用量の削減につながっています。

#### しぼれる軽量ボトル

簡単にしぼれる、12gの軽量ボトル。自社従来製品ペットボトルより、樹脂使用量を約40%削減しました。



#### プラントボトル

原材料の一部（5%～30%）植物由来の素材を使用。非再生資源である石油への依存を減らしています。



# 2 食の安全と健康

## 高品質で安全安心な製品の提供による健全なライフスタイルへの貢献

コカ・コーラシステムでは、地域の皆さまのあらゆるライフスタイルやニーズに合う製品を信頼される品質で提供できるよう独自のマネジメントシステムを運用しています。私たちがお届けするのは、「さわやかさと潤い」、そして、交わし合う笑顔とすこやかな時間です。



# KORE

## Coca-Cola (KO\*) Operating Requirements

コカ・コーラ オペレーティング リクワイアメント

※「KO」は、ニューヨーク証券取引所に上場しているザコカ・コーラカンパニーの略称です。  
 ※「KORE」にはISO9001(品質マネジメントシステム)、FSSC22000(食品安全マネジメントシステム)、ISO14001(環境マネジメントシステム)、ISO45001(OHSAS18001)(労働安全衛生マネジメントシステム)の基準が含まれています。

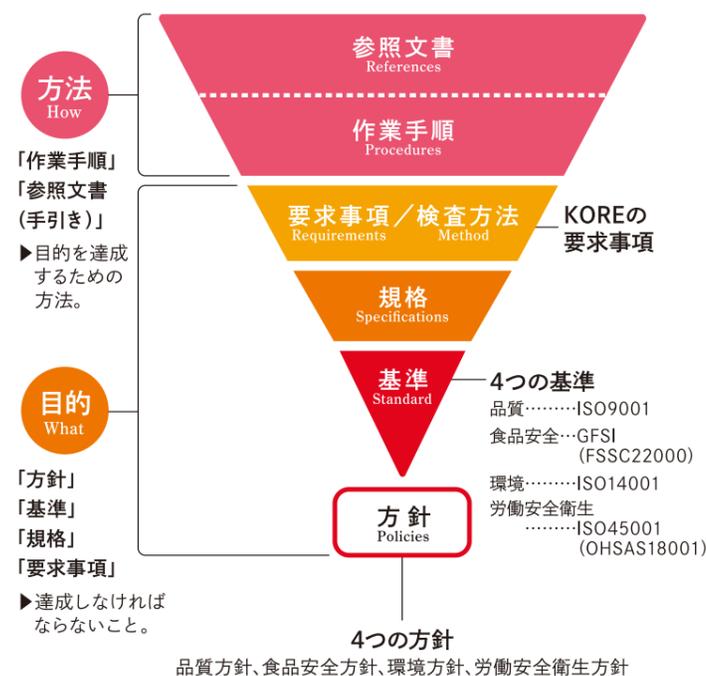
## 安全と健康を守る マネジメントシステム

### 「KORE」によるオペレーション管理

日本コカ・コーラ(株)と当社が属するボトラー会社や関連会社で構成されるコカ・コーラシステムでは、KORE(コア・Coca-Cola Operating Requirements)と呼ばれる独自のマネジメントシステムによるオペレーション管理を世界共通で行っています。ものづくりは、原材料の調達から製造を経て物流、そして販売というプロセスを進みながらお客さまが製品を手にするようになります。すべての過程には常に複雑で多様な条件や状況に左右されるリスクがありますが、KOREではすべてのプロセスにおいて、「品質」と「食品安全」、「環境」及び「労働安全衛生」に関する独自の基準が網羅的に定められています。それらは国際規格ISOや各種法令の要求事項よりも、さらに厳しい基準です。

### 「KORE」の構造

KOREには、「品質」「食品安全」「環境」「労働安全衛生」という4つの要素があり、各々には、「方針」「基準」「規格」「要求事項」「作業手順/参照文書」という5つの階層があります。「方針」から「基準」「規格」「要求事項」までは目的を定めたもので、「作業手順/参照文書」には、その達成のための方法が示されています。



## 賞味期限切れの防止

製品がさまざまな販売チャネルをとお客さまに届くまでの鮮度の管理目標や製品取扱管理基準を設けて、賞味期限が切れたり容器不良を起こさない仕組みを整えています。とりわけ自動販売機における賞味期限については、商品を充填する営業担当者が適正本数の充填とチェック活動を徹底。また工場倉庫からの出荷から自動販売機に充填されるまでの管理や在庫の適正化、加温販売における温度管理などのガイドラインを設けて、全製品の安全と高品質の維持に努めています。



## ISO9001、FSSC22000認証取得

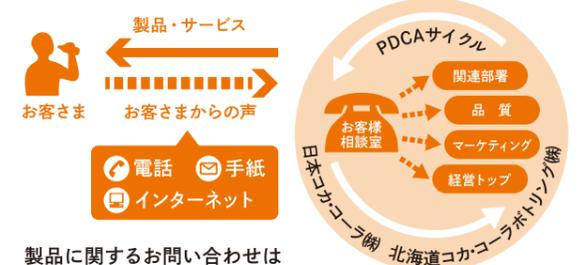


## お客さまとのコミュニケーション

### お客さま対応の基本理念

当社は、高品質な製品を通してお客さまに「さわやかさと潤い」をお届けする企業です。そのために、お客さまとのコミュニケーションを大切に、常に安心できる製品とサービスを提供するとともに、お客さまからの声を事業に活かしながら、地域の皆さまから「信頼され、認められる企業」を目指しています。

お客さまから寄せられるご指摘やご提案、お問い合わせなどは、すべて当社の貴重な糧です。お客さま対応の体制については、顧客満足に関する国際規格ISO10002に適合していることを確認して、2007年8月に適合を宣言しました。



### お客さま対応の基本方針

- (1)お客さまの声を真摯に受け止め、公正、公平で透明性の高い対応を心掛けるとともに、迅速、適切に行動します。
- (2)お客さまとの大切なコミュニケーションの機会ととらえ、積極的な情報提供を行います。
- (3)社会に対する責任を自覚し、関連する法的、倫理的な要求事項や自主的基準を遵守します。
- (4)お客さま満足の向上を目指して、常に最善を尽くします。

製品に関するお問い合わせは  
 日本コカ・コーラ(株)お客様相談室  
**0120-308509** (土日祝日を除く 9:30~17:00)  
 URL <http://www.cocacola.co.jp>  
 北海道コカ・コーラボトリング(株)広報・CSR推進部  
**011-888-2131** (土日祝日を除く 9:00~17:30)

## 工場見学

工場見学来場者数  
 (累計)  
**約79万人**

札幌工場では随時工場見学を受け付けています。徹底した衛生管理と先進のシステムが稼働する製造ラインや巨大な立体自動倉庫がご覧いただけます。終了後には試飲もお楽しみください。

- 見学できる日時 月~金曜 (10:00~11:30, 13:30~16:30)  
 ※祝日も見学可能です(一部休みあり)。  
 ※7~9月は土曜も見学可能です。  
 ※製造ラインが稼働していない場合は、映像でのご案内となります。
- 所要時間 約60分  
 ※ご要望に応じて調整できます。
- ご案内人数 2~140名
- 入場無料



お申し込み 前日までの完全予約制です。  
 電話(前日まで)または専用WEBサイト(3日前まで)からご予約ください。  
 ※定員になり次第、受付終了となりますのでご了承ください。

**011-888-2100**  
 (受付時間/月~金曜 9:00~17:30)  
<http://factory.hokkaido.ccbc.co.jp>

## 地産地消を応援

製品数  
(2018年末時点) 約 **190** 種類

### 製品の9割を札幌工場で製造

当社は、北海道内で販売している製品のおよそ9割を札幌工場で製造しています。

北海道で製造しているコカ・コーラ製品の原材料に使用している砂糖や牛乳には北海道産のものを使用し、北海道の地産地消を応援しています。

### 札幌工場の製品に使用している水は100%北海道産 (札幌市清田区の地下水)

当社の製品は、北海道の豊かな大地に育まれた良質な地下水を使ってつくられています。その地下水の水源は札幌工場と同じ清田区に位置する白旗山です。白旗山に降り注いだ雨や雪が、長い年月を経て不純物が取り除かれた良質な水となり、地下水脈を流れてきたものを札幌工場の地下約200~400mの井戸で汲み上げて使用しています。

### 地産地消による環境負荷低減

道産原料を多く使用し、道内で製造することで、原料の生産地と製品の消費地が近くなり、フードマイレージをおさえ環境負荷低減に貢献しています。

### 札幌工場の製品に使用している砂糖は100%北海道産

北海道の大地は、砂糖の原料となるビートの栽培に最適です。当社では、その豊かな大地に育まれた道産砂糖を100%使用しています。

### 札幌工場の製品に使用している牛乳は100%北海道産

上質なミルクは、土と草と乳牛が作り出す北海道の恵みそのもの。当社が使う牛乳はすべて、酪農王国北海道産です。

## 北海道の健康を支える取り組み

### 北海道コカ・コーラが販売するトクホ(特定保健用食品)・機能性表示食品

当社は、時代のニーズに合わせた多様な製品ラインナップで北海道の皆さまの生活をサポートしていきます。近年は健康志向の高まりにお応えし、トクホ(特定保健用食品)・機能性表示食品のラインナップを広げています。トクホ(特定保健用食品)と機能性表示食品は申請や届け出の流れや表示方法に違いがありますが、どちらも科学的な根拠に基づいた有効性と安全性の情報をもとに機能の表示ができる食品です。



#### トクホ(特定保健用食品)

- コカ・コーラ プラス
- スプライト エクストラ
- 綾鷹 特選茶
- からだすこやか茶W

#### 機能性表示食品

- カナダドライ ジンジャーエール ダブル
- アクエリアス S-Body
- 爽健美茶 健康素材の麦茶
- からだ巡茶 Advance



#### トクホ・機能性表示食品ラインナップ

<http://www.cocacola.co.jp/inryoguide/lineup>

これらのトクホおよび機能性表示食品に関する許可表示・届出表示などの詳細は、左記リンク先をご覧ください。

### 札幌医科大学との包括連携協定

2018年10月、当社は、知的財産の有効活用を図りつつ相互の発展に寄与するとともに、北海道の保健・医療・福祉の向上など地域社会の発展に役立てることを目的に、北海道公立大学法人札幌医科大学と包括連携協定を締結しました。

この協定に基づき、2018年12月には、札幌医科大学との共催による「第1回こころからだ うるおいアカデミー」を開催。このセミナーでは、「ヒトは海から来た~体の水の秘密~」をテーマに、体への水の重要性や塩分摂取について、難しい体の仕組みや構造を、ユーモアを交えながら易しく解説していただきました。



「第1回こころからだ うるおいアカデミー」開催

## 地域を盛り上げる北海道限定製品

当社は北海道の「今」を見つめ、生活者の皆さまに喜んでいただける商品、また北海道の「新しい発見」をお届けする北海道限定製品を製造・販売しています。



●ジョージア サントスプレミアム



●ミニッツメイドQoo どうぶつデザイン



- コカ・コーラスリムボトル缶(北海道限定デザイン)
- い・ろ・は・す 天然水
- い・ろ・は・す ハスカップ
- ジョージア ミルクコーヒー



- ジョージア オリジナル 北海道限定デザイン
- さっぽろ雪まつり応援デザイン缶
- YOSAKOIソーラン祭り応援デザイン缶

### VOICE

#### 民間企業と連携した健康応援への取り組み



札幌医科大学医学部  
細胞生理学講座  
教授  
当瀬 規嗣さん

大学の社会的な使命の一つに、学問・研究活動によって得られた知識や思想を、広く社会に啓蒙し、社会の利益に資することがあります。したがって、大学はより積極的な情報発信が求められるところですが、大学において情報発信の活動に振り向けられる資源には限りがあり、発信力の向上が急務であります。そのような状況で、民間企業から情報発信に係るご助力をいただくことは非常にありがたく、大学としてもより積極的に御協力申し上げようと決意をしております。私共が扱う健康科学は急速に変化発展しており、社会への情報発信は一過性では成り立ちません。息の長い持続的な情報発信を、御社と手を取り合って推進していきたいと存じます。

## 地域とともに取り組む 住みよいまちづくり

### 北海道との包括連携協定

かねてより北海道と協働で安全・安心なまちづくりや環境保全などに尽力してきた当社は2014年、その取り組みをさらに広げていくため、以下の6項目において北海道との包括連携協定を結び、どさんこ企業として地域との絆を深める活動を展開しています。

- 安全・安心な地域づくり
- 観光振興
- 食や健康
- 環境保全・環境教育
- 固有文化・歴史の伝承
- その他双方が必要と認める事項



自動販売機の電光掲示板を使った道政情報の配信

### 子どもの安全を見守る運動

「大人だけが子どもの安全を守ることができる」というコンセプトで始まったこの運動は、北海道が2006年度赤レンガチャレンジ事業として推進した「民間企業等とのタイアップ事業」第1号となりました。官民一体となって、子どもたちを日常のリスクから守ろうと呼びかける取り組みは道民運動として採択され、その後、「安全・安心どさんこ運動」へと発展しました。当社では事業所と車両(約900台)にポスターやステッカーを掲示しながら、社員一人ひとりが日常業務を通して、子どもたちの安全を見守る活動を実践しています。



「子どもの安全を見守る運動」のステッカー

# 3 地域社会



## どさんこ企業として 取り組むべき 健全な地域づくり

企業活動は、地域に根ざすことで地域の糧になり、そしてそのことがまた、企業の糧にもなります。私たちは地域とのそうした関わりを大切に、地域と北海道を考えます。



### まちづくりパートナー協定

当社は2009年、札幌市と「さっぽろまちづくりパートナー協定」を締結しました。また、市内10区とそれぞれ協定を結び、特色を生かしたまちづくり活動を行っています。

2008年には旭川市、2009年には函館市、2010年には釧路市、帯広市とそれぞれまちづくりへの協力協定を結びました。2014年には広尾町と「サンタクロースの夢を育むまちづくりパートナー協定」を結び、地域との協働の輪を広げています。



「まちづくりパートナー協定」を締結(札幌市豊平区)

## 安全安心への取り組み

### 北海道開発局との幅広い協働

2006年、北海道開発局と締結した「協働事業による包括協定」に基づき、当社は、同局と自治体の連携により、道の駅に電光掲示板付き災害対応型自動販売機を設置し、道路情報や地域情報などを発信する「おしらせ道ねっ」とを運用しています(全道で現在約130台)。緊急時には災害や交通に関する情報を流すほか、災害時に飲料が無償で提供される「フリーベン



道路緊急ダイヤル「#9910」のステッカー

ド」の機能も備えています。さらに高規格道路のパーキングエリアや国道の防災ステーション、パーキングシェルターなどにも災害対応型自動販売機を設置しています。さらに、2014年からは、全道10の開発建設部と「道路異常の情報共有、及び道路緊急ダイヤルの啓発活動に関する協定」を締結。業務中の当社社員が道路の異常を見つけた際には、速やかに通報するとともに、当社車両900台にステッカーを掲示し、啓発に協力しています。

### 北海道警察と協働



当社は全道すべての警察署と協定を結び、電光掲示板付き自動販売機で防犯や事件情報を配信する「防犯ほっとインフォメーション」の運用を行っています。さらに、自動販売機のポスター掲示部分を活用し、子どもたちが描いた防犯ポスターや、飲酒運転根絶ポスター、オレオレ詐欺などの特殊詐欺防止ポスター、児童虐待防止啓発ポスターなどを警察署や地域の生活者と協働で作成、自動販売機に掲出することで、安全安心な地域を目指した取り組みを推進しています。



子どもたちによって描かれた防犯ポスター

### 犯罪被害者支援活動

2010年から、北海道の犯罪被害者や被害家族、遺族のために、道内各警察署に設置している自動販売機の売り上げの一部を、公益社団法人家庭生活総合カウンセリングセンターに寄付しています。また、犯罪被害への人々の理解を求めて毎年11月に行われる犯罪被害者週間の啓発活動にも参加しています。



街頭啓発活動への参加

### 通学見守りボランティア

釧路事業所では、2010年から社員が交代で小学校の通学路に立ち、声かけ・見守り活動を続けています。地域の防犯への貢献を認められ、2014年には地域の小学校から、2017年には交通安全協会から感謝状をいただきました。



通学路での声かけ・見守り活動

## 地域の企業・団体との連携 職業を通してまちを知る「キッズタウン」

「キッズタウン」は、職業体験を通じて仕事の楽しさや社会の仕組みを学び、まちの成り立ちを理解しながら地元への愛着を育んでもらうことを目的にした親子イベント。自治体や教育委員会、地元企業などの協力のもとで、道内5都市（釧路、函館、帯広、苫小牧、旭川）で毎年開催しています。子どもたちは仮想上のまち「キッズタウン」の企業や団体に就職して、さまざまな職業体験を行い、保護者は子どもたちの仕事を観察し見守ります。2018年も5都市で約2,400人が、さまざまな仕事に一生懸命に取り組みました。

キッズタウン参加人数(累計)  
約 **17,100**人



「キッズタウン」の様子

### 「キッズタウン」協力企業・団体（2018年）（敬称略、順不同）

- 釧路市 / 一般社団法人 釧路地方自動車整備振興会、一般社団法人 釧路薬剤師会、オムツカフェレストラン ALOHA、函館路厚生社、函館市消防本部 釧路オフィス、函館市消防本部 釧路山花温泉リフレ、函館市エイブス社、釧路菓子商組合、釧路ガス、釧路市消防本部、釧路信用金庫、釧路方面釧路警察署、コーチャンフォーグループ 釧路リアル、釧路電気工業協同組合、和商市場販売子コーナー、立ち喰いそばマキ、日本郵便 釧路中央郵便局、釧路西郵便局、丸亀木村製菓、釧路市測量設計事業協会、さくらカフェ・aNd.BAZAAR
- 函館市 / ㈱あさひや・北島製パン(㈱)・キョーゾ(㈱)・サン・リフレ 函館 レストランROKAN、函館南ラズルズ、函館朝市協同組合連合会、函館技術士会、函館空港ビルディング(株)、学校法人 野文学園 函館短期大学、函館市環境部、函館の街をきれいにする市民運動協議会、函館市環境部、函館の街をきれいにする市民運動協議会、函館市消防本部、函館市青果物地方卸売市場活性化対策協議会、函館新聞社、函館税務署、函館市財務部、一般社団法人 函館薬剤師会、函館山ロープウェイ(株)FMのい、ハコレドット
- 帯広市 / 足寄動物化石博物館、㈱エムカンパニー、北海道警察 釧路方面帯広警察署、帯広市事務局、とち広域消防局 帯広消防署、帯広市図書館、帯広信用金庫、一般社団法人 帯広地方自動車整備振興会、日本郵政(株) 帯広郵便局、㈱オカモト、㈱清森商店、帯広美容協会、十勝バス(株)、㈱十勝毎日新聞社、㈱藤森商会、北海道看護協会十勝支部、㈱北海道銀行、㈱北海道新聞社 帯広支店、北海道電力(株) 帯広支店、とち薬師会、ヤマト運輸(株) 道東主管支店、六花亭製菓(株)、㈱帯広シーケーパブル、㈱みかんせい、㈱福原、㈱木村建設
- 苫小牧市 / 愛わんどベーカーリー、胆振地区造園技能士会、㈱コスモグラフィック、㈱金剛剛、総合整備保障 苫小牧支店、苫小牧海上保安署、苫小牧ガス(株)、苫小牧市立病院、苫小牧信用金庫、苫小牧地区自動車整備協同組合、苫小牧民報社、公益社団法人 北海道作業療法士会、ヤマト運輸 千歳主管支店、㈱住友のウチケ、㈱北海道銀行、苫小牧市民薬局(株)、苫小牧市環境衛生部ゼロコミ推進室、rinnacchi、㈱TransCool、㈱イートアップ、道南(バス)、日本郵政 苫小牧郵便局、㈱たいよう、㈱セブン、イレブン、ジャパン
- 旭川市 / 旭川印刷業組合、㈱三建設事務所、東芝ホクト電子(株)、㈱豊屋総本店、一般社団法人 旭川薬剤師会、㈱日本旅行北海道、トータルエステティックサロン Bochoumer(ボシュメル)、㈱北海道銀行、旭川美容専門学校、旭川市消防本部、㈱サキエ、旭川ガス(株)、花本建設(株)、㈱カネモト共同企業体、㈱至誠まごころ館、㈱山城数村社、㈱カラムラ、一般社団法人 旭川地方自動車整備振興会、㈱道北アークス、国立大学法人 旭川医科大学、旭川ケーブルテレビ(株)、小さな小さなハンドメイドショップ REGALO、㈱コナスコポーレーション、北海道警察

## ふれあいボランティア除雪や地域の清掃活動

高齢・お体が不自由等の理由で自力の除雪が困難な世帯に対して、除雪を通じて地域住民の方々とコミュニケーションをとりながら、地域活性化を図る「ふれあいボランティア除雪」を札幌市清田区、豊平区、三笠市で実施しています。

また、地域の清掃活動では、札幌の象徴である大通公園をきれいにしようと、2013年よりボランティアで清掃活動をはじめ、今では当社のみならず、多くの企業の方が参加するものとなりました。さらに、本社・札幌工場や事業所のある札幌市清田区、東区と「アダプトプログラム」を締結し、建屋周辺の清掃活動を行っています。



清田区ふれあいボランティア除雪



本社前の清掃活動

## 動物園との協働

札幌市と結び「札幌市円山動物園を舞台とした環境協働事業に関する協定」に基づいて2008年に円山動物園内に休憩スペース「ネイチャーカフェ・アース」を開設・運営。2010年には「猛禽類野生復帰施設」の建設費用の一部を寄付しました。2013年からは、絶滅危惧種4種（ホッキョクグマ、マレーバク、オオワシ、カバ）を描いた「ミニッツメイドQoo どうぶつデザイン」を発売し、売上の一部を寄付しています。また、2019年春にオープンした話題のゾウ舎も応援しています。

また、旭川市とは「魅力あるまちづくりに関する基本協定」を結び、旭山動物園内に休憩スペース「やすらぎの森」を寄贈しました。その隣では地元企業や学校、市民が協働で農園を開き、「つながる輪『いのち』」と名づけた、動物の排泄物と微生物の働きを活かした循環型農業の環境教育プログラムを行っています。さらに動物園を通して子どもたちの未来を応援するために、「あさひやま“もっと夢”基金」を支援する自動販売機を市内に設置して、売上の一部を同基金に寄付しています。



「ミニッツメイドQoo どうぶつデザイン」寄付金贈呈式



循環型農園「つながる輪『いのち』」

## 社会貢献活動の支援 寄付型自動販売機の広がり

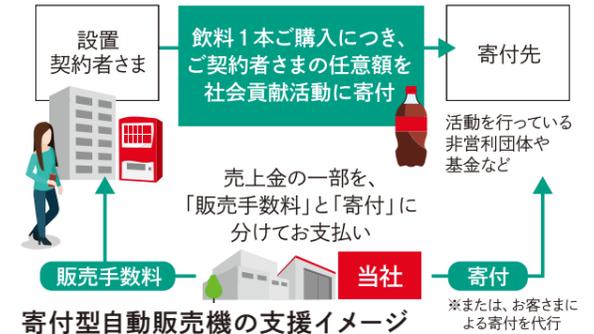
当社は、さまざまな寄付型自動販売機を展開しています。これは、自動販売機の設置契約者さまのご協力で、自動販売機で飲料を購入するごとに売上金の一部が対象団体に寄付される仕組みです。2010年から始まったピンクリボン活動支援自動販売機では、売上金の一部が公益財団法人北海道対がん協会に寄付され、全道の乳がん検診受診率向上を目的とした活動に役立てられています。

寄付型自動販売機  
**40**種、約**1,100**台



ピンクリボン活動支援自動販売機 JOCオリンピック支援自動販売機 盲導犬応援自動販売機

そのほか、公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）のメッセージポスターの掲示や、オリンピック競技をデザインしたオリジナルラッピングをほどこした「JOCオリンピック支援自動販売機」では売上金の一部がJOCへ寄付され、東京2020オリンピック大会で活躍が期待される競技団体の選手強化支援及びオリンピック・ムーブメント推進に役立てられます。



### 寄付型自動販売機の支援イメージ

設置契約者さまや生活者の皆さまが自動販売機による飲料購入を通じて社会貢献活動を支援できる取り組みです。

## 地域活性化のお手伝い 全道で地域のお祭りを支援

北海道の代表的なお祭り、「さっぽろ雪まつり」や「YOSAKOIソーラン祭り」では、応援デザイン缶を発売して祭りをPR。売上の一部を組織委員会に寄付しています。「YOSAKOIソーラン祭り」では、本社と同じ清田区にある札幌国際大学と協働し「コカ・コーラ札幌国際大学」として毎年チーム参加しています。また「旭川冬まつり」や「帯広氷まつり」、食の分野では「北の恵み食べマルシェ」や「はこだてグルメサカス」などをサポートし、地域との関わりを大切にしています。



さっぽろ雪まつり応援デザイン缶



YOSAKOIソーラン祭り応援デザイン缶



「コカ・コーラ札幌国際大学」の演舞

## スポーツで地域を元気に

地元のプロスポーツチームである「北海道日本ハムファイターズ」、「北海道コンサドーレ札幌」、「レバンガ北海道」を応援しています。さらに、2007年より当社の「レバンガ北海道」当社冠試合

地元のプロスポーツチームである「北海道日本ハムファイターズ」、「北海道コンサドーレ札幌」、「レバンガ北海道」を応援しています。さらに、2007年より当社の「レバンガ北海道」当社冠試合マスコットキャラクター「Qoo」とファイターズの球団マスコットキャラクターが道内の幼稚園や保育園を訪問して行う、「ちゃんと食べよう体操」を通じて、親子への食育活動に取り組んできました。「Qoo」は2010年より札幌市の食育特別大使に任命されています。



「レバンガ北海道」当社冠試合

また、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けた取り組みとして、2018年8月、日本コカ・コーラ（株）が聖火リレーのプレゼンティングパートナーの第一号となりました。コカ・コーラシステムが一丸となって、東京オリンピック・パラリンピックに向けたさまざまな応援を行っています。

## クリスマスといえばコカ・コーラ

当社では1968年より毎年、クリスマスの時期に全道の福祉施設などへ製品のプレゼントをしてきました（累計320万本以上）。また、サンタの姿で楽しくウォーキングして、参加費の一部で病氣と闘う子どもたちへプレゼントを贈る活動「サンタラン」や、サンタからクリスマスカードが届く「サンタメール」事業にも協力しています。

社会福祉施設への製品贈呈(累計)  
約 **320**万本、**51**年継続

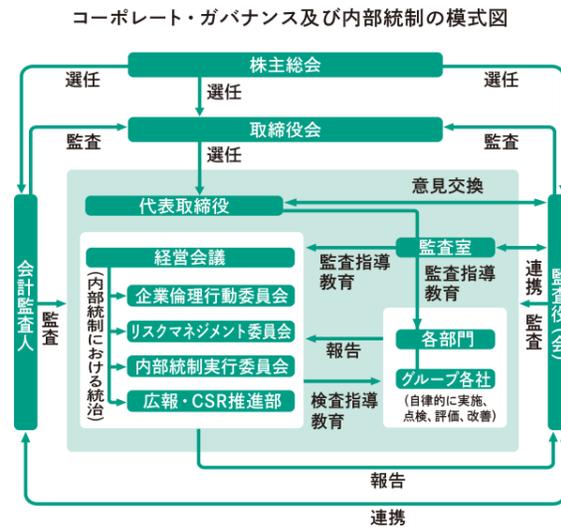
# よりよい職場づくり

社員一人ひとりが北海道を支え、ともに成長していくために。自然災害などの幅広いリスクへの備えや、企業マネジメントの質向上、そして社員の自己実現を支える働きたい職場づくりに向けた総合的な制度設計に取り組んでいます。

## マネジメント体制

### コーポレート・ガバナンス

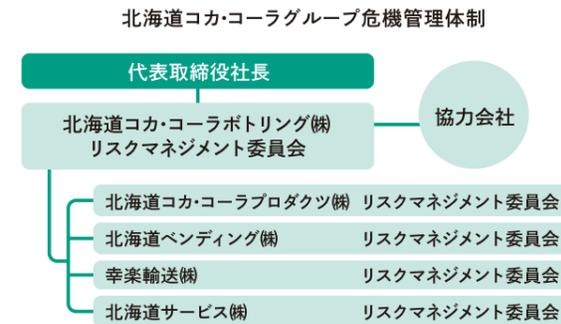
お客さま、株主、従業員、取引先、地域の皆さまなど、さまざまなステークホルダーとメリットを持続的に分かち合い、共通の価値を創造できる関係づくりを、すべての業務において重視しています。社内では経営意志の的確な決定とそれに基づく業務遂行、適正な監督・監査体制を整えるために、内部統制システムの強化と、社会的信頼の獲得を目的とした「北海道コカ・コーラグループコンプライアンス管理基本規程」を定めています。



## リスクに備えて

### 危機管理体制の強化

天災や製品事故など緊急事態に遭遇した場合は、当社独自の「リスクマネジメント方針」に基づき、リスクマネジメント委員会が主導してただちに部門横断的に対応できる体制を構築しています。ベースには、コカ・コーラシステムがリスクマネジメント及び危機管理プログラムとして定めているIMCR (Incident Management&Crisis Resolution) があり、これを全社員で共有するために、IMCRトレーニングを毎年定期的実施しています。



## 営業車両にも防災グッズ

災害発生時にはまず社員一人ひとりの安否を、携帯電話への一斉配信によって確認します。また災害時に不足が予測される物品は各事業所に備蓄しています。さらに配送トラックや営業車両などにも、非常食や折りたたみ式スコップ、防寒用アルミシート、携帯トイレ、携帯電話用充電器などの防災グッズを配備しています。



車載の防災グッズ

## BCPの策定

事業継続に必要な最低限の機能を抽出し、被災により事業が停止しないための準備を行うことを目的に、2015年にBCPを策定しました。

BCPのポリシーは、北海道のライフラインの一端を担う企業としての責任を果たすため、

- 1.北海道の生活者に安心・安全な製品・サービスを安定的に供給する。
- 2.事業継続に重要な資産（人・組織、製品・マーケット、情報、インフラ、財務）の復旧・保護を優先的に実行する。とし、平成30年北海道胆振東部地震の際は、このBCPに基づき生活者に安定的な製品供給を実行しました。

# 働きやすい職場づくり

## 人事戦略としての働き方改革

### 「ワーク」と「ライフ」の充実

当社では長年取り組んできた「ワーク・ライフ・バランス」の考え方を進歩させ、「ワーク」と「ライフ」の充実をコンセプトに働き方改革に取り組んでおります。

「ワーク」の生産性を高め充実させるためには、「ライフ」の充実が必要である、と考えているためです。

目まぐるしく変化する会社生活のなか、「ライフを充実させる暇はない」と、目の前の作業に夢中になりすぎるのではなく、いったんそれを止めて自己研鑽や心身ともに十分な休養をとり、効率良く進めるための工夫をすることで、同じ仕事をより充実させ生産性の向上を図ろうというものです。

### 有給休暇連続5日取得制度

2018年より全社員を対象に（一部対象外）、年に1回、有給休暇の連続5日取得を義務付けました。「ワーク」と「ライフ」の充実により、更なる生産性向上のサイクルを回すことと同時に、休日の業務を他のメンバーがカバーすることで、一人ひとりの業務の見える化を行い、業務効率化やワークシェアリングを推進しています。

### 出産・育児・介護支援制度の充実

人生における仕事と家庭と社会の適正なバランスを図るために、育児・介護救護法に基づいた育児休業制度をはじめ、介護休業制度、子どもの看護休暇、そして所定労働時間を最大3時間短縮する育児短時間勤務制度があります。さらに、所定外労働時間の免除や育児のための時差出勤制度も整え、社員の家族生活や地域との関わりを側面から支援しています。

また、当社の社員向けポータルサイトに「出産・育児のためのカンガルーガイドブック」を掲載し、制度周知を促進しています。

## 多様な人材育成制度

時代にふさわしい高度な専門能力の取得を目的に、2011年から「グローバル人材育成制度」を設け、働きながら取り組める「MBAコース」「語学コース」「海外研修コース」があります。また「女性のための活躍支援ミーティング」も行われています。さらに通信教育費の一部を会社で負担するなど、自己啓発や各種資格の取得を奨励しています。

## VOICE



### 休暇制度を活用したボランティアワークへの参加

技術部  
品質・環境推進課  
馬場 えりかさん

この度、有給休暇連続5日取得制度を利用して、ベトナムボランティアワークの旅に参加しました。ベトナムの農村で小学校の教室を作るお手伝いとして、ペンキ塗りやタイルの目地埋め、施設訪問などを行いました。参加にあたり、11日にも及ぶ旅程と体力面が心配でしたが、この制度が後押しとなり決断に至りました。観光旅行では味わえないチームの団結や、現地の方々との交流、そして感謝をたくさんもらったことが良い経験となりました。制度には業務のシェアを進める目的もありますが、有休を大いに活用できる機会にもなったと思います。



現地の子どもたちとのふれあい



ペンキ塗り作業の様子

# 環境会計について

「環境会計」とは、企業が環境保全に投じたコストとその活動により得られた効果を把握するための会計手法です。

## 環境保全コスト

2018年度は、倉庫照明などのLED照明への切り替えや札幌工場の省エネ対策工事など環境負荷低減に向けた取り組みに投資を行いました。

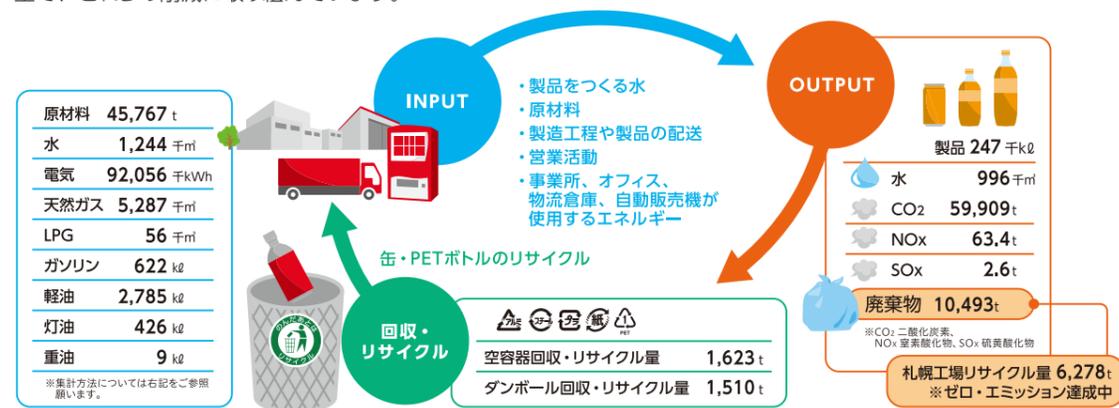
また、事業所の廃棄物集積場の整備を実施し、法令遵守と独自のマネジメントシステム「KORE」の要求事項を満たすことに努め、事業活動で排出される廃棄物を適正に管理・処理する取り組みを継続しています。

(単位：千円)

項目	主な取り組みの内容	2017年		2018年	
		投資額	費用額	投資額	費用額
1.事業エリア内コスト	計	92,254	131,373	52,894	130,609
(1) 公害防止コスト	工場排水処理 他	22,702	27,780	10,054	24,807
(2) 地球環境保全コスト	工場節水設備・省エネルギー設備 他	69,300	15,870	40,356	19,741
	自動販売機のフロン回収・破壊	0	10,905	0	6,910
	天然ガス車・ハイブリッド車のリース費用	0	26,233	0	24,611
(3) 資源循環コスト	各事業所の廃棄物の処理・リサイクル	252	47,925	2,484	52,026
	自動販売機の処理・リサイクル	0	2,660	0	2,514
2.上・下流コスト	計	0	88,496	0	112,399
	空容器の回収・リサイクル	0	24,336	0	24,382
	空容器回収ボックス・空容器回収用ポリ袋	0	32,971	0	32,635
	再商品化実施委託料	0	31,189	0	55,382
3.管理活動コスト	計	0	31,497	0	31,630
	環境負荷の測定	0	21,372	0	21,795
	EMS構築・運用、環境コミュニケーション	0	10,125	0	9,835
4.社会活動コスト	計	0	13,463	0	13,236
	業界団体活動、環境支援活動 他	0	12,943	0	12,736
	本社構内緑化保守	0	520	0	500
	合計	92,254	264,829	52,894	287,874

## マテリアルバランス

マテリアルバランス(物質収支)とは、事業活動において必要とされる資源・エネルギーの量(インプット)と、それに伴う廃棄・排出量(アウトプット)を表したものです。当社では生産活動における環境負荷を把握した上で、これらの削減に取り組んでいます。



## 環境効果

販売機器では、自動販売機のノンフロン化や「ピークシフト自販機」などの省エネ型自販機の投入により、環境負荷低減に取り組んでいます。また、建屋の冷暖房設備を更新し灯油・重油から天然ガスへ燃料転換を行ったことでCO<sub>2</sub>排出量の削減に努めました。

物流部門では、積載率の改善や環境に配慮した大型トレーラーの導入等により、物流効率化と使用車両の両面でCO<sub>2</sub>削減を進めています。

今後も、省エネ活動やリサイクルの推進等、環境負荷低減に取り組んでいきます。

## 環境保全効果

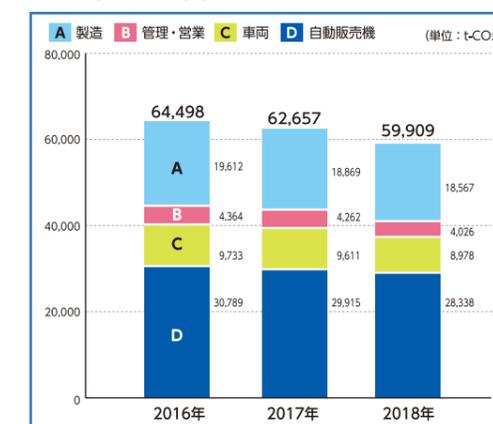
項目	単位	2016年	2017年	2018年	対前年増減率	
		実績値	実績値	実績値		
総エネルギー使用量(熱量換算)	GJ	1,367,717	1,328,422	1,271,697	-4.3%	
CO <sub>2</sub> 排出量	t-CO <sub>2</sub>	64,498	62,657	59,909	-4.4%	
NO <sub>x</sub> 排出量	燃焼設備	t	7.7	7.3	7.1	-2.9%
	車両	t	61.1	60.5	56.3	-6.9%
水使用量	m <sup>3</sup>	1,282,700	1,254,321	1,242,959	-0.9%	

## 環境保全対策に伴う経済効果

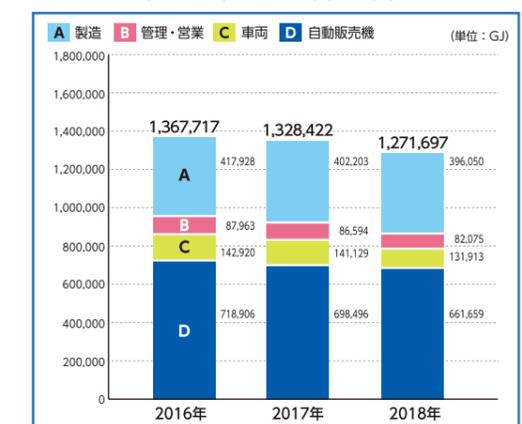
(単位：千円)

内容	2016年	2017年	2018年
リサイクルにより得られた有価物の売却額(自動販売機、缶、PET、古紙等)	25,715	30,389	29,789

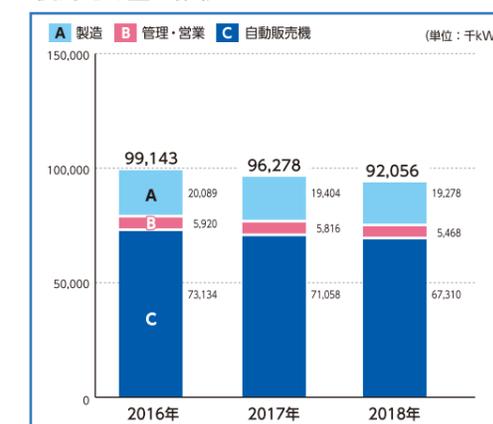
## CO<sub>2</sub>排出量の推移



## エネルギー使用量(熱量換算)の推移



## 使用電力量の推移



## 水使用量の推移



(集計方法について)

- CO<sub>2</sub>は電力・燃料より、NO<sub>x</sub>・SO<sub>x</sub>は燃料より算出しています。(SO<sub>x</sub>は排出量が微量であるため、環境保全効果の表中には記載していません。)
- 燃料由来のCO<sub>2</sub>排出量は、「地球温暖化対策推進法施行令」に基づく換算係数より算出しています。
- 電力由来のCO<sub>2</sub>排出量は、電気事業連合会CO<sub>2</sub>排出原単位より算出しています。
- NO<sub>x</sub>排出量は、環境省「環境活動評価プログラム」の排出係数より算出しています。

- SO<sub>x</sub>排出量は、燃料の組成より理論値を用いて算出しています。
- 管理・営業の項目には、物流倉庫の数値を含めています。
- 車両の項目には、敷地内で使用するフォークリフト及び当社製品等を運搬している外部委託車両の燃料使用量を含めています。
- 製造(井水)は製造量と連動しています。

# 企業プロフィール

北海道コカ・コーラボトリングの事業範囲は、北海道全域。  
地域の健全な発展がなければ、私たちの事業も成り立ちません。  
道民の皆さまと支え合いながら、社会的責任を果たしていきます。

## 経営理念 私たちは、知的に活性化された豊かで創発的な社会に貢献します。

### 経営指針

- 私たちは、
1. 生活者やパートナーに「さわやかさと潤い」を提供します。
  2. 生活者やパートナーとの共存共栄を図るとともに地域社会に貢献します。
  3. 変革にチャレンジし、活力ある創発的な会社をつくります。

### 社員行動規準

- ・私たちは、常に「さわやかさと潤い」を届けます。
- ・私たちは、生活者やパートナーとのコミュニケーションを大切にします。
- ・私たちは、一人ひとりがさわやかな存在になります。
- ・私たちは、時代の変化に適応し変革を起こし続けます。
- ・私たちは、「環境に、地域に優しい」企業活動を実践します。
- ・私たちは、良き「企業市民」として社会に貢献します。

### コカ・コーラシステムについて

日本コカ・コーラ株式会社から原液の供給を受けて製品の製造と販売を行うのが、当社のようなボトラーです。ボトラーは全国に5社。それぞれの地域に根ざしたきめ細かなサービスを展開しています。  
当社は札幌本社を中心に全道16カ所の事業所を展開。変わらぬ品質を確実にお届けしています。



### 会社の概要 (2018年12月31日現在)

商号	北海道コカ・コーラボトリング株式会社 (コカ・コーラ指定会社) HOKKAIDO COCA-COLA BOTTLING CO.,LTD.
設立	1963年1月24日
代表者	代表取締役社長 佐々木 康行
本社所在地	〒004-8588 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号 TEL (011) 888-2001 (代表)
資本金	29億3,515万4千円
従業員数	428名 (グループ1,289名)
事業の概要	北海道を販売地域とした清涼飲料の製造及び販売
事業所	本社、札幌工場、営業拠点 (16)
決算期日	毎年12月31日 (年1回)
上場証券取引所	東京証券取引所市場第2部、札幌証券取引所

### グループ会社の概要

- 北海道コカ・コーラプロダクツ株式会社  
清涼飲料水及び飲料水用容器の製造  
各種自動販売機の修理、設置及び撤去
- 北海道ベンディング株式会社  
自動販売機による飲料、食品等の販売
- 幸楽輸送株式会社  
コカ・コーラ社製品の工場・営業拠点間の輸送、  
一般貨物輸送、倉庫業
- 北海道サービス株式会社  
一般事務処理業務、事務機器等のリース、清掃業、  
損害保険代理業

### 企業集団の財産及び損益の状況の推移

(単位: 百万円)

区分	第55期 (2016年)	第56期 (2017年)	第57期 (2018年)
売上高	56,620	56,061	55,997
経常利益	2,441	2,431	2,220
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,587	1,884	1,412

## 北海道コカ・コーラボトリングCSRレポート2019 第三者意見



小樽商科大学大学院商学研究科  
アントレプレナーシップ専攻・教授  
山本 充

このレポートの最大の特徴は、北海道コカ・コーラグループのCSR活動がSDGs(持続可能な開発目標)と関連付けられたことである。グローバル・ゴールズとも呼ばれるSDGsは、すべての組織と人々に対して貧困を解消し、地球環境を保全して、すべての人が平和と豊かさを楽しむことを目指した行動の目標と到達基準を明確にしたものである。また、SDGsのアプローチの特徴は「バックキャスト」である。これは達成すべき望ましい目標を定め、目標達成するための行動計画を立てて実践していくアプローチである。このアプローチには、望ましい将来像に到達するプロセスで生じる様々な障害をクリアする新たな方法論(技術開発を含む)を創出する力を秘めている。その新たな方法論が社会に拡散することでイノベーションの拡大が図られ、社会全体の持続可能性が強化されることが期待できる。つまり、SDGs対応は組織や人に新しい方法論を生み出すスキルをもたらすことになる。このため、北の大地の持続可能性を向上させる新しい方法論を北海道コカ・コーラグループが生み出すことに期待したい。

北海道大学大学院水産学研究科修士課程修了。(株)たぐん総合研究所などを経て1995年に小樽商科大学商学部助教授、2004年に大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻(専門職大学院)に異動、2005年より現職。博士(農学)。専門は環境経済学。近年は生態系サービス勘定や環境配慮行動を行動経済学の視点から研究している。

北海道コカ・コーラグループのCSR領域は「環境」・「食の安全と健康」・「地域社会」である。これらの領域におけるCSR活動とSDGsの関連性が確認されたことは、北海道コカ・コーラグループがSDGsに対応しないリスクと、SDGs対応によるビジネスチャンスの創出を理解している証でもある。環境領域では生態系の動脈系と静脈系の機能を担っている水系を中心に生態系の健全性に貢献し、食の安全と健康領域では高品質な製品と消費の安心感を提供して人間の健全性に貢献している。また地域社会領域では人と人の絆を強め、災害に対する回復力を持つ地域社会の健全性に貢献している。まさに“Think Globally, Act Locally.”である。この3つの領域で用いられている技術や方法論を融合した新たな方法論は、変化する環境への順応力をもたらす知恵を北の大地に授けてくれるに違いない。北の大地が聡明な選択をするには、北海道コカ・コーラグループと地域社会が互いにナッジ(Nudge)し合うことが欠かせないだろう。

## [ ご意見・ご感想 ]

今後の企業活動やレポートづくりの参考とさせていただくため、本レポートをお読みいただいた皆さまのご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

## 作成部署・連絡先

北海道コカ・コーラボトリング株式会社  
広報・CSR推進部  
〒004-8588  
札幌市清田区清田一条一丁目2番1号  
TEL(011)888-2091  
ホームページアドレス  
<http://www.hokkaido.ccbc.co.jp/>

### 【CSRレポート バックナンバー】

バックナンバーは下記の当社ホームページでご覧いただけます。  
<http://www.hokkaido.ccbc.co.jp/company/csrreport.html>



CSRレポート2016



CSRレポート2017



CSRレポート2018



## 北海道コカ・コーラボトリング株式会社

(コカ・コーラ指定会社)

〒004-8588 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号  
TEL(011)888-2091 (広報・CSR推進部)

COCA-COLA、コカ・コーラ、COCA-COLA ZERO、コカ・コーラ ゼロ、  
COCA-COLA PLUS、コカ・コーラ プラス、GEORGIA、ジョージア、爽健美茶、  
そうけんびや、からだ巡茶、Advance、からだすこやか茶、綾鷹、あやたか、  
AQUARIUS、アクエリアス、SPRITE、スプライト、Qoo、クー、  
MINUTE MAID、ミニッツメイド、ILOHAS、いろはす、は、  
The Coca-Cola Company Limitedの登録商標です。  
CANADA DRY、カナダドライ、は、Atlantic Industriesの登録商標です。

2019年3月発行/次回は2020年3月の発行予定です。

